

会 議 報 告（会議録要旨）

会議名	第 1 回牧之原市水道事業審議会
日時	令和 8 年 3 月 25 日（水） 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分
場所	榛原庁舎 4 階 会議室
出席者	【委員】 13 人中 12 人出席 【委嘱状交付、挨拶、諮問書交付】 市長、副市長 【事務局】 建設部長、水道課長、業務係長、工務係長、業務係員

■ 審議要旨

1 給水区域による料金・負担の格差

【現 状】 市内には 5 つの給水系統があり、区域によって料金や供給の安定性が異なる。

【委員 意見】 同じ市民でありながら負担に差があることへの懸念が示され、負担の平等化（料金のプール制など）の可能性について意見あり。

【事務局回答】 地方公営企業法により、事業体ごとに経費に見合った料金を設定する必要があるため、格差が生じることは了承いただきたい。

2 水源の確保とコスト

【現 状】 費用の約 55%を受水費（水を買う費用）が占めている。

【委員 意見】 新たな水源（地下水や海水淡水化）の検討が提案され、過去の調査では水質の問題（窒素など）や膨大な施設コストが課題となり、現状は大井川広域水道からの受水が最も安定かつ安価であるとの見解が示された。

3 水道事業の広域化

【現 状】 静岡県主導で広域化の勉強会が進んでおり、最終的には大井川流域での料金統合や経営統合が目標とされている。

【委員 意見】 国内、県内で経営統合や同一料金にして欲しい。

【事務局回答】 事務システムの共同調達など、可能な部分からコスト削減に向けた連携を始めている。

4 施設の老朽化と耐震化

【現 状】 高度経済成長期に整備された施設や管路は更新時期を迎えており、長島ダムは築 24 年を迎え、将来的には更新が必要となる。

【委員 意見】 牧之原市の耐震化率（24%）が近隣市と比較して低く見える点について、統計上の分類（配水本管の口径定義の違いなど）により数値が変動するため、数値の精査と見せ方の工夫が必要ではないか。

5 市民への周知・広報

【委員 意見】 水道料金改定の議論にあたり、単なる値上げの話だけでなく、水道の歴史やこれまでの経緯、将来の安全確保の重要性を「物語的」に伝え、市民の理解を得る必要があるのではないかと。

マイナスの情報だけでなく、市に住み続けたいと思えるようなプラスのイメージも含む情報発信が必要ではないかと。